

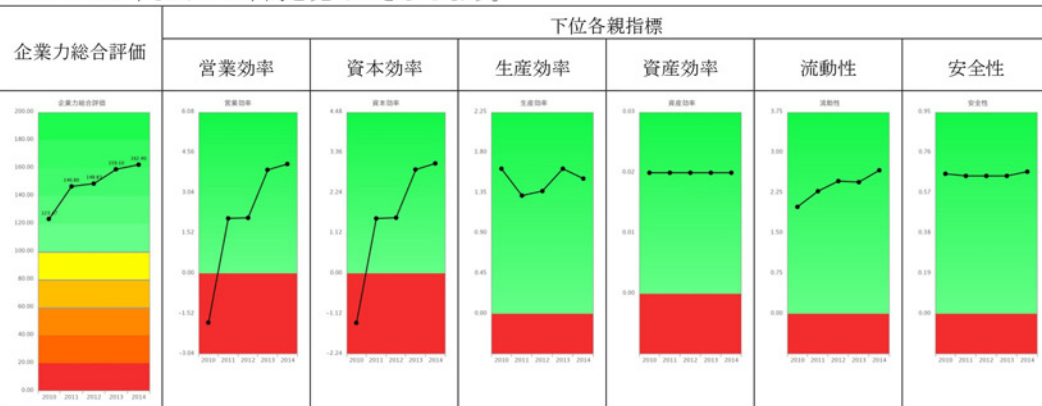


# 経営分析ニュース

第109号  
2014年12月20日発行  
毎月20日発行

今回は、株式会社電通国際情報サービスを分析しました。(株電通国際情報サービスは、親会社の株電通と、子会社14社、関連会社4社により構成され、ITサービス(①コンサルティングサービス ②受託システム開発 ③ソフトウェア製品 ④ソフトウェア商品 ⑤アウトソーシング・運用保守サービス)と⑥情報機器販売の6つのサービスを提供する情報サービス事業を行っています。

2010～2014年までの5年間を見ていきましょう。



企業力総合評価は、123 → 146 → 148 → 159 → 162 と推移しています。

営業効率(儲かるか)は、2010年に赤信号領域から急改善し、踊り場を経て、成長トレンドです。資本効率(株主評価)も同様です。生産効率(人の利用度)は、青信号領域を変動しながらほぼ横ばいです。資産効率(資産の利用度)は、青信号領域を安定しています。流動性(短期資金繰り指標)は改善トレンドです。安全性(長期資金繰り指標)も高い位置で青信号領域です。

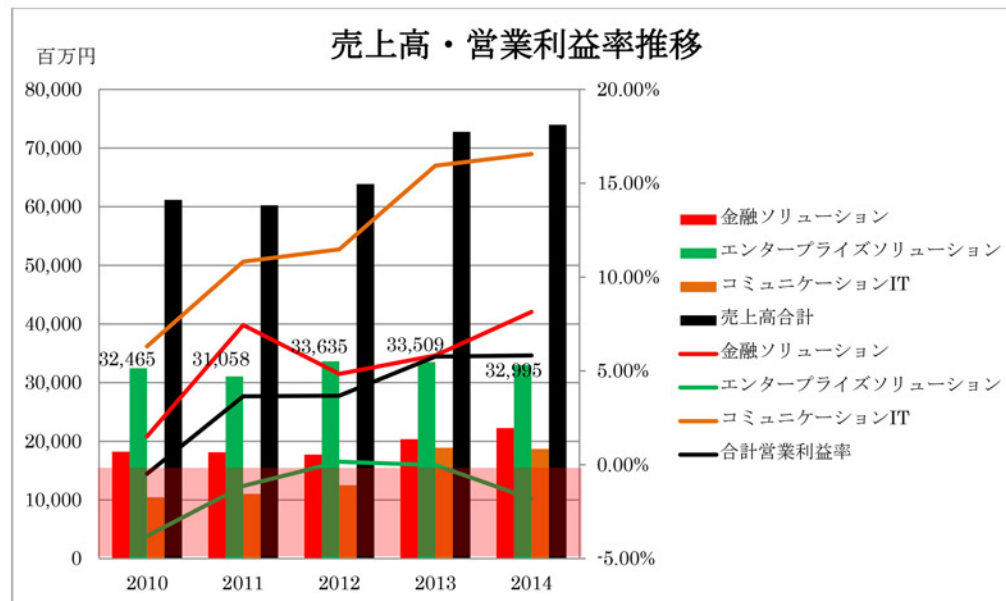
営業効率、資本効率、流動性が改善していますから、儲かって、財務体質が改善してきており、成長の好循環に入っています。2010年、営業効率が赤信号領域であっても、企業力総合評価が高く123ポイントというのは、財務体質が良いなど、土台を支える指標が良いからです。日頃から土台を作っていれば、(株電通国際情報サービスの様な「助け」がある会社になれます。

営業効率を詳しく見てみます。2010年は営業損失が出ましたが、2011年減収増益で青信号領域に改善しました。

	2010	2011	2012	2013	2014
売上高合計	61,155	60,232	63,869	72,764	73,970
売上総利益	18,744	19,706	19,883	22,493	22,572
売上高総利益率	30.65%	32.72%	31.13%	30.91%	30.52%
営業利益	▲296	2,198	2,350	4,193	4,311
売上高営業利益率	▲0.48%	3.65%	3.68%	5.76%	5.83%
経常利益	▲239	2,352	2,497	4,312	4,768
売上高経常利益率	▲0.39%	3.90%	3.91%	5.93%	6.45%
当期純利益	▲139	▲131	1,518	2,625	2,875
売上高当期利益率	▲0.23%	▲0.22%	2.38%	3.61%	3.89%

(株電通国際情報サービスは、3セグメントで構成されています。

- ① 金融ソリューション・・・金融業界を対象とした各種金融サービスに関わるソリューションの提供
- ② エンタープライズソリューション・・・人事・会計・生産管理分野を対象とした各種基幹システムに関わるビジネス系ソリューションと、製造業の製品開発・製造分野を対象としたエンジニアリング系ソリューションの提供
- ③ コミュニケーションIT・・・電通グループとの協業による企業向け各種ソリューションの提供



2010年、営業利益率は、コミュニケーションIT>金融ソリューション>エンタープライズソリューションの順です。エンタープライズソリューションは、常に合計営業利益率より低く、大きな赤字なので、お荷物の存在です。

その後4年間で、同順序で売上高を伸ばし、更に営業利益率を伸ばしました。但し、エンタープライズソリューションは営業利益率が改善したとは言えません。

コミュニケーションITは、電通グループとの「協業」による企業向け各種ソリューションの提供ですが、エンタープライズソリューションは、「協業」はしません。つまり、グループ会社の強みを出し合い、グループ全体でより付加価値の高い商品にして販売し、利益を上げていることが分かります。

お荷物のエンタープライズソリューションの売上は、全体の営業効率が急伸した2011年は減収で、踊り場の2012年は増収、成長トレンドの2013～2014年は減収で、全体と逆の動きです。

### まとめ

(株電通国際情報サービスは、グループ経営によるシナジー効果で利益を上げています。儲からないセグメントは減収の方が企業力を上げる要因になっていました。

### 編集後記

セグメントの名前がカタカナで長かった。漢字だどう表現するのカナ。

〒556-0005 大阪市浪速区日本橋4-9-21 SARUKIビル4F 猿木真紀子税理士事務所

Tel. 06-6631-4570 Fax. 06-6631-7970 info@saruki-tax.jp http://www.saruki-tax.jp